

## 春だけに見られる

### 1. エナガの尾曲り

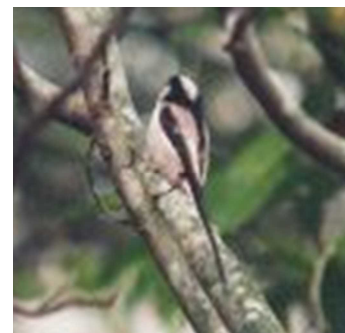


巣のある場所



エナガの巣

3月になると、それまで群れで行動していたエナガが番(つがい)の2羽単位で見られるようになります。ジュルリ、ジュルリという鳴き声に樹を見上げれば、餌を探して落ち着きなく枝を移動する姿が目に入ります。ピンポン球に10cm近い尾を付けた体形は名称のとおりです。



エナガ

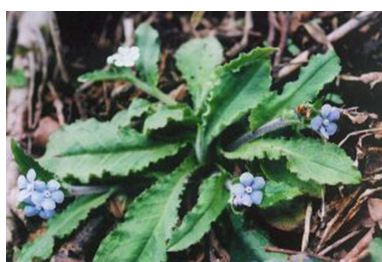
早い個体は3月末には産卵し、4月中旬には雛が見られることもあります。長径20cmばかりの、ハイゴケ類をクモの糸で絡めて作った倒卵形の巣は横にカーテン付きの入り口があり、内部は羽毛でぽかぽか暖かくなっています。

サクラの老木など地衣類がたくさん付いた樹の枝分かれ部分に載せた格好であり、一番外はウメノキゴケなどの地衣類を貼付けますので、見つけにくくなっています。育雛期に親を追跡すると、枝分かれが太いなど思える場所にすぽんと入ります。内部の羽毛が穴を塞いでいます。抱卵期の親鳥は狭い巢内に長時間いるため長い尾羽が

曲り、癖がついてしまっています。時々餌取りに出てきますので、このような個体を追跡すると巣のありかを見つけやすいです。秋冬には強風などで落下している巣を見ることもときどきあります。

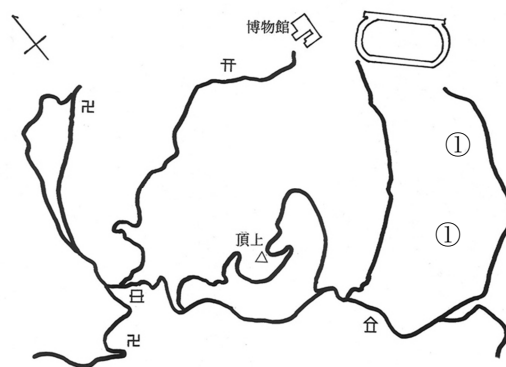
### 2. ヤマルリソウの花(地図中①地点)

ワスレナグサの名でよばれる園芸種に近いムラサキ科のヤマルリソウは、花数は少ないですが春の遊歩道では



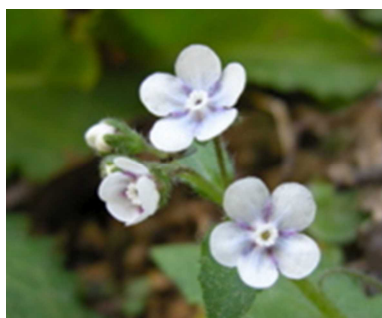
ヤマルリソウ

目立つ植物です。林縁や道端などの適度の湿めりのある場所を好み、大江神社の上や長谷の



木造展望台下の樹冠が開いているところに生育しますので、水分と日照が必要なことがわかります。

花が瑠璃色をしていることが和名の由来ですが、打吹山に生育する個体は淡青紫色で濃くありません。しかし、その中でも個体によって濃淡があります。冬期は杓子形の葉が地面についていますが、やがて四方に花茎を伸ばして斜上し、先端の花穂を下から次々開いていきます。植物体全体に密に白い毛が有り、花色と相まって優雅です。



ヤマルリソウの白い花

花が終わると長いつるを伸ばし、途中から根を出して新しい株を作る多年草ですので、毎年同じ場所で観察することができます。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2013)